

賛助会員紹介 青山シビルエンジニアリング(株)

このたび東京都山岳連盟の賛助会員としてご紹介頂けることを大変光栄に思います。都岳連とのご縁は「気象教室 2025年度 山の天気入門講座」に、弊社社員が個人で参加したことがきっかけでした。山を愛する仲間として学びの場に加わる中で、会社としても活動を応援させて頂くことになりました。社名にある“Civil Engineering”は本来「土木工学」を意味しますが、私たちはそこに「工学技術を通じて文明社会に貢献する」という思いを込めています。1952年の創業以来、地盤・環境・測量調査を通じて社会インフラを支えながら、自然と人が安心して共生できる未来づくりに取り組んできました。2019年には気象予報業務の許可を取得し、新たに気象分野にも事業を広げています。その取り組みのひとつが、富士山での気象観測プロジェクト「イマフジ。」です。山頂や各登山道に観測機器を設置し、気温・風速・降水量などをweb上でリアルタイムに無料配信しています。さらに試験的に御殿場口新五合目の雷アラートも提供中です。

2025年度「沢登り教室」実施報告

2025年度の沢登り教室ですが、15名の参加者を得て本年6月に開校しました。沢登り教室は、教室と言っても実践が中心で、実際の沢登りを通して沢登りに必要な基礎知識の習得を目的としています。都岳連事務所で開校式と机上講習を経て、7月5日から6日にかけて1回目の実技講習を実施しました。場所は表丹沢の水無川流域で、宿泊場所は沢登り教室定宿の作治小屋です。5日は集合後、作治小屋でロープワーク等の基礎的な訓練をした後、モミゾ懸垂岩に場所を移し、実際の岩場でフリクションノットによる登りと懸垂下降を体験してもらいました。その後、新茅ノ沢に入渓し、F1とF2の実際の滝を2つ登攀し、登った滝を懸垂下降で下降してもらいました。5日の夕食は、沢登り教室恒例のバーベキューで、講師が食材を買い出し、皆で調理を手伝い、懇親を兼ねた楽しいひと時を過ごしました。作治小屋からは猪のお肉の差し入れがありました。翌日の6日は、水無川本谷に入渓しF5までの遡行です。快晴猛暑の中、水無川本谷に入渓し、沢の中の涼しさを堪能しながら、F1からF4の滝をすべて登攀してもらい、最後のF5は高巻きの練習を兼ねて左側のルートを巻きました。帰りは朽ち果てた書策新道を下山しました。作治小屋に到着し、ミーティングを実施しましたが、参加者からは、楽しく沢登りを体験出来たとの感想が多数寄せられ、講師としてうれしい限りでした。

安全登山教室委員会 鈴木 博道

加盟山岳会紹介・会員番号 557 ～六つ星山の会～

当会は1982年、視覚障害者を友として互いに助け合いながら山に登り、自然を楽しむことを目的として結成されました。現在の会員数は約180名（うち4割が視覚障害者）です。会の名前の「六つ星」は、点字が六つの点から成っていることと、星座のスピルの別名・六連星（仲間が集まって一つになる）に由来します。日帰りで行ける山が中心ですが、時には雪山や3000m級のアルプスにも出かけます。臨時会山行や個人山行も活発で、花めぐりや餅つき、温泉を組み合わせた山行など担当者が工夫を凝らしています。山では、晴眼者（視覚に障害がない人）が視覚障害者の前後を歩きます。視覚障害者は前サポーターのザックにつけたロープを手で握ることで、段差や方向などある程度把握し、前サポーターは倒木や岩などの障害物、危険箇所があれば声で知らせ、後ろサポーターは必要に応じて声をかけます。そして、斜面に咲く花や風の匂い、瑞々しい木々の香り、鳥の声、山道の感触と一緒に楽しみ、登頂の喜びを共にします。多くのサポーターに支えられ、会員数、山行数ともに大きく成長発展してきましたが、近年はサポーター不足で視覚障害者の参加を制限せざるを得ないこともあります。会の運営と山行が会員の期待に応えきれないのが実情で、サポーター層の裾野拡大が喫緊の課題です。ご自身の体力や経験に合わせて参加できますので、ホームページをご覧ください。

六つ星山の会 広報部 杉森 千絵子



公益社団法人 東京都山岳連盟

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-10 パークサイドセブン2F

Tel/03-3526-2550（月～金13:00～17:00） Fax/03-3526-2551(常時) https://www.togakuren.com E-mail:lej04543@nifty.com

また、2025年5月には「イマ鉄。」をリリース。東京都内の全路線・全駅ごとの「いまの空模様」をお伝えするサイトで、天気予報ではなく“今の瞬間”の空を知ることができるサービスとして役立てて頂いています。私たちが目指すのは、「山や街の気象が見える化し、安心・安全につなげる」ことです。今後も都岳連の皆様と共に山を楽しみ、その魅力を分かち合えれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

気象コンサルティング部 小柳津 由依

青山シビルエンジニアリング株式会社
https://www.ace-geo.jp/companyprofile/

「イマフジ。」https://imafuji.earth/
「イマ鉄。」https://imatetsu.earth/ja



イマフジQR

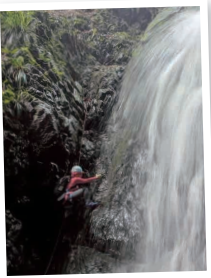
編集後記

皆さま夏山山行は如何でしたでしょうか。平地は今年も記録的な猛暑日が続きましたが、高山では朝晩はひとときの避暑になったと思いますし、日中でも稜線を渡る涼風に癒されたのではないのでしょうか。今回の通信三号の沢登り教室の報告でも涼しさが伝わっているのではないのでしょうか。思い出深い夏山シーズンが終わり、通信がお手元に届く頃は秋山が始まっていると思います。熊の出没被害が頻発しているのが心配ですが、紅葉が鮮やかな期間は短いですが、くれぐれも注意して秋山を楽しんでいただきたいと思

出版委員会
星野 恒行



作治小屋の炊事場をバックに



滝を登る



2025年7月/平標山の山頂で



2024年9月/伊豆ヶ岳



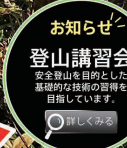
2025年3号

公益社団法人 東京都山岳連盟

TMF とがくれん通信

写真：山岳同人グループ・ダンプリング・須永 栄信／白毛門から笹ヶ岳・朝日岳

都岳連HPでクリック！



第13回通常総会後の理事会決議報告とJMSCAに関する報告

1、とがくれん通信2号に掲載した「第13回通常総会—2024年度事業及び決算報告について」に関して、その後の理事会で決議した事項報告

1) 公益会計での正味財産増加が106万円以上出ていることを踏まえて、80周年記念事業への特別積立金を110万円とすることを第5回理事会で決議しました。

2) 社会保険料がマイナス計上としていたものを24年度の実負担額34,058円に修正、内閣府への決算報告を修正することとあわせ、第5回理事会で審議・決議を行ないました。

2、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)に関する報告

6月22日(日)に開催されたJMSCA総会で都岳連関係メンバー4名が理事に選任されました。

廣川健太郎(関東ブロック推薦)、栗田季慎子(役員推薦)、小高令子(役員推薦)、藤江理枝(役員推薦)、総会後理事会で廣川が副会長兼登山部長、さらに7月理事会で廣川が日山協共済会会長、ガバナンス委員長、栗田がSC部SC普及委員長、小高が登山部自然保護委員長、藤江がSC部SC普及委員長を担当することとなりました。

JMSCAは2021～2023年度の3年度の赤字で正味財産、特別積立を失い、2023年度は加盟団体・関係者による基金で債務超過を免れ、2024年度は利益が確保できた状況です。

スポーツクライミングのオリンピック競技種目化により、5億円以上に事業規模が拡大していますが、SC部が行なう強化や競技大会などの助成事業は基本的に利益計上は難しく、また登山部も内向けの講習事業などがほとんどで都岳連と大きく異なっております。

JMSCA登山部では新規取組みとして都道府県・ブロック単位での各都道府県5～10カ所の山のグレーディング、遭難発生主要箇所と事故防止対策紹介、全国をみれば既に取組みを進めているところもある安全登山普及、登山環境・岩場整備・アクセス対策、減遭難対策＝道迷い防止など、各地の活動を情報共有・横展開を進めることなど検討協議を始めています。

登山でもより公益的な事業を広げ、新たな参加者、協力を得ていくことをめざし、9月5日に開催された関東地区岳連会長情報交換会には、山岳遭難所轄警察署に挨拶回りをしてから参加致しました。

都岳連では関係諸機関と奥多摩エリアでの山岳遭難事故防止のため、奥多摩トレイル安全データマップを昨年作成し2025年度も作成を予定しております。

公益社団法人 東京都山岳連盟 会長 廣川 健太郎

totoスポーツ振興くじ助成金を受けて

第11回スポーツクライミング東京選手権大会 開催報告

2025年4月12日(土)～13日(日)、東京都葛飾区・東金町運動場スポーツクライミングセンターにて「第11回スポーツクライミング東京選手権大会」を開催いたしました。東京都は選手層が厚く強豪選手が揃うため、代表選手の選考には大会の高い品質が求められます。本大会は「tスポーツ振興くじ助成金」のご支援を受けたことにより、質の高い運営を行うことができ、無事に代表選手を選考することができました。来たる2025年10月3日(金)～5日(日)に滋賀県で開催される「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025」のスポーツクライミング競京都代表選手が全種別に出場いたします。引き続き、皆さまのご声援をよろしくお願い申し上げます。

スポーツクライミング局 局長 栗田 季慎子



ボルダージュニア上位入賞者

第79回 国民スポーツ大会関東ブロック大会スポーツクライミング競技 結果報告

2025年6月28日・29日、群馬県前橋市「ALSOK ぐんまサブアリーナ」にて開催された第79回国民スポーツ大会関東ブロック大会スポーツクライミング競技において、東京都代表チームは少年男子・少年女子・成年女子の全種別で勝ち抜き、10月に滋賀県で開催される本大会への出場権を獲得しました。昨年に続き2年連続で全種別が国スポ進出を果たす快挙です。

関東ブロックは全国でも屈指の激戦区。8都県が出場する中、通過枠は成年女子3枠、少年男子2枠、少年女子3枠と非常に狭き門でした。限られた枠をめぐる熾烈な争いの中、東京都チームは一人ひとりが強い気持ちを持って競技に臨み、見事に全種別で勝利を収めました。

今年は空調設備のない会場で猛暑の中での開催となり、選手たちにとっては非常に過酷な状況でしたが、集中力と粘り強さを発揮して堂々たる成績を残しました。会場には廣川健太郎会長、栗田スポーツクライミング局長をはじめ、多くの保護者の皆様が駆けつけ、その熱い声援とサポートを送ってくださいました。その支えが選手たちの背中を押し、競技に集中できる環境をつくってくださいました。

<代表選手とチーム総合成績は以下の通りです>

成年女子：青柳 未愛選手、佐藤 妃那選手（監督：渋谷 愛）【第3位】

少年男子：笹原 蓉翠選手、神原 藍琉選手（監督：柿崎 暢）【第2位】

少年女子：山崎 彩葉選手、柿崎 咲羽選手（監督：美谷島 ももか）【第1位・優勝】

※成年男子については今年度ブロック大会免除枠により、すでに本大会への出場が決定しています。

大会参加にあたり、都岳連の役員、事務局、スポーツクライミング局の役員ならびに保護者の皆様には多大なるご協力をいただきました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

東京都代表チームは、10月3日から始まる滋賀国民スポーツ大会本戦に向けてさらなる強化を図り、昨年に引き続き天皇杯・皇后杯のW受賞を目指して挑戦を続けてまいります。皆様の温かいご声援が、選手たちの力となります。引き続き、応援のほどよろしくお願いいたします。



賞状をたくさん頂いて喜ぶ選手たち

スポーツクライミング局 国スポ選手強化委員長 柿崎 暢

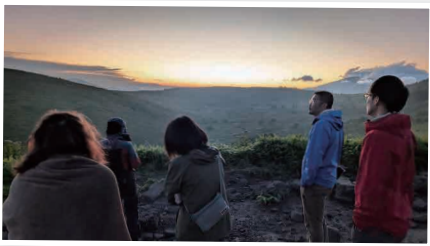
背景写真：少年女子ボルダーク競技

「猪熊さんと体験する夏山の観天望気in霧ヶ峰・車山」実施報告

夏山の観天望気の実技講習会は山岳気象予報士の猪熊隆之氏を講師にお招きして、霧ヶ峰の車山と八島湿原にて開催しました。今回は車山の気象観測レーダーの一般公開に合わせた平日開催でしたが、各地から熱心な方々が参加されました。初日の8/7(木)は朝から雨のためレーダーの公開が順延されたため、宿舎で雨上りを待ちながら、猪熊講師によるお天気講座、馬杉委員（気象予報士）とのトークショーなどと盛り沢山に過ごしました。幸い数時間で雨も上がり、おいしい晩ご飯の後は夕景も楽しむことができました。

翌日はヒュッテ近くの高台での早朝お天気散歩からはじまり、車山の山頂での観天望気、レーダー観測施設の見学と続きます。このレーダーは実際にクルクルと回転して気象観測している様子が、年に一度だけ公開されるという貴重な施設です。その後、車山湿原から沢渡付近ではアサギマダラなどの可愛い蝶たちの歓迎を受け、御射山神社へ。さらに夏から秋の花が咲き乱れる八島ヶ原湿原へ。楽しいお天気ハイキングとなりました。ご参加の皆様からは猪熊講師のわかりやすいお話や、親しみやすいお人柄などが大好評でした。ころぼっくるヒュッテは少人数用で、アットホームなおもてなしが持ち味です。今シーズンから専任シェフが提供するバルシチは大人気で、平日でも朝から行列でした。ご参加の方からも大好評で、ついでに筆者もすでにリピーターです。ごちそうさまでした。

気象委員会 島田 義信



早朝観天望気



室内講習



気象観測ドーム

杉山修の山と版画の世界

今号が発行される頃には夏山シーズンが終わっている頃になるのでタイムリーな話題ではなくなるのだが・・・。

富士山の登山規制が今季より変わった。山梨、静岡両県は足並みを揃えて入山料を徴収することとした。いわゆる弾丸登山を防止するため入山時間を規制した。インバウンドのオーバーツーリズムの問題、年間20万人の登山者の排泄物処理は膨大な負担になっている。相変わらずのゴミ処理をボランティア活動に頼れない。その費用を有料負担だけでは解決できない。そもそも人はなぜ富士山に登りたがるのか。日本一の標高という魅力だけなのか。適正の登山者数とはどれくらいなのか。難しい課題だ。

さて今回の作品は谷川岳（一ノ倉沢好日）です。今年は残雪が多くて6月6日まで旧道は通行止めだった。7日に電気バス開通でスケッチのため出合いまで入った。陽光に恵まれ本谷の残雪が眩しかった。足元の雪深が割れていて沢流が覗いて見えるが危なくて近づけない。絵の中に入れてくても少し無理な構図で作画した。毎年遭難者の数がニュースになったころもあったが、今は登攀者数も少なくなって静かになったようだ。昼過ぎ谷の上部に響き渡る音がして雪崩が起きて雪煙があがった。



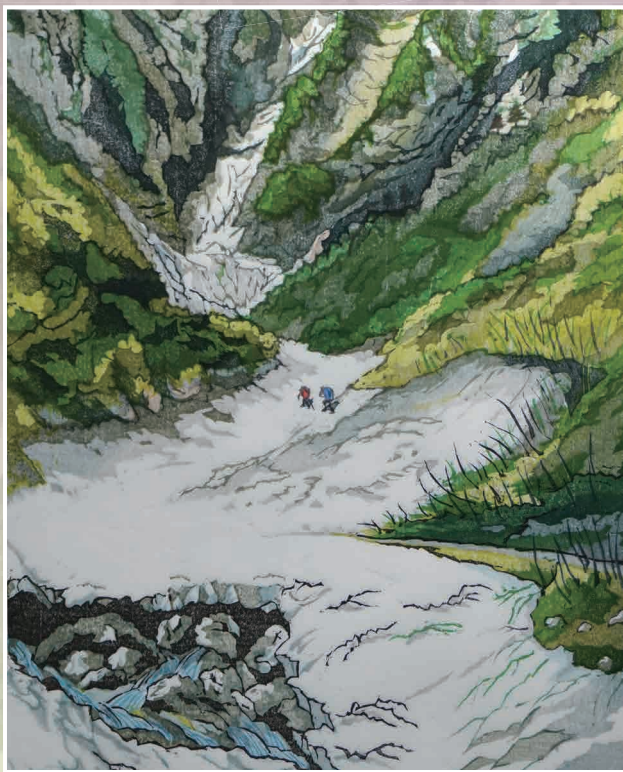
プロフィール

杉山 修(すぎやま おさむ)

1946年 東京、下町に生まれる。

登山活動の傍ら、四季を通して、写真・スケッチの取材を行い、山岳風景をテーマに、自撮り、自彫りの木版画を発表している。好山会会員、日本山岳協会代表幹事、日本版画院同人、日本山岳文化学会会員

ホームページ :osamuhanga.com



越前和紙 顔料 墨 膠 6版21摺 500×400mm

山岳写真教室「初夏の入笠山で撮る」開催報告

5月17日～18日に「初夏の入笠山で撮る」をテーマに山岳写真教室が開催されました。土砂降りの雨で初日を迎えた今回の写真教室は、ヒュッテのゲルを借り切って座学でのスタートだった。各自が事前に用意した写真の講評や、絞り値やシャッタースピードの設定について、塩田講師からご教授を頂く。また、小林ガイドからの登山に関する講義も加わり、充実したひと時となった。

ヒュッテでの食事は夕食も朝食もビュッフェであったが、とても手の込んだ料理で、参加者全員が大満足！ 夜は雨も上がり、ヒュッテのご主人の案内でナイトハイク。鹿の群れと出逢うことができた。

2日目は、カッコウやホトトギスの鳴き声が響く中、まずは入笠山に登った。登山道では、咲き残っていたミネザクラや、満開のカメノキの花などを撮影しながら山頂へ。山頂からは、富士山や甲斐駒ヶ岳などを望むことができ、各自、構図に悩みながらも、様々なポジションで沢山シャッターを切っていた。

入笠山から下りて来て、湿原へも足を伸ばす。新緑の白樺林やまだ残っていたミズバショウ、エンレイソウやカタクリの群生など、被写体には事欠かず、春から初夏への移ろいを感じながら、皆時間を忘れて写真を撮っていた。

参加者皆にとって、頭を悩ませながらの写真教室だったが実りの多い2日間であった。

参加者の作品は、塩田講師の講評入りで都岳連 HP に記載されているので、ぜひご覧下さい。

プロガイド養成委員会 理事 武土田 尚子



その場で質問



狙う



←ここからご覧いただけます

全国優待施設案内

- ◎宿泊施設
- ◎奥多摩／三条の湯
- ◎奥秩父／雲取山荘
- ◎富士山／三ツ峠山荘、トモエ館
- ◎谷川岳／関東／谷川岳肩ノ小屋、永楽荘、谷川温泉(株)旅館 たにがわ、孀恋の宿あいさい、土合山の家、下仁田荒船の湯
- ◎日光／日光澤温泉、スパ・ビレッジカマヤ、日光湯元温泉(株)奥日光小西ホテル
- ◎浅間／天狗温泉浅間山荘
- ◎尾瀬／山ノ鼻小屋、尾瀬小屋、燧小屋

- ◎新潟／燕温泉(有)ホテル花文、赤倉温泉大野天風呂「滝の湯」
- ◎丹沢／蛭ヶ岳山荘、みやま山荘
- ◎ハケ岳／夢科山頂ヒュッテ、赤岳天望荘、ヒュッテ夏沢、美濃戸山荘、ハケ岳山荘、ハケ岳オーレン小屋、ペンションさんどりよん
- ◎北アルプス／明神館、太郎平小屋、薬師沢小屋、高天原山荘、スゴ乗越小屋、みくりが池温泉、雷鳥沢ヒュッテ、らいちょう温泉雷鳥荘、ロッジ立山連峰、大和リゾート(株)Royal Hotel 長野、中房温泉、新穂高温泉ひがくの湯と登山者食堂

- ◎南アルプス／北岳肩ノ小屋、山彦荘、赤石温泉
- ◎東北・北海道／八幡平高原ホテル、アルプ天元台、八甲田山荘、飯豊山荘、国民宿舎竜山荘、三斗小屋温泉大黒屋、酸ヶ湯温泉、八幡平リゾート(株)八幡平マウンテンホテル、(株)宿かり屋ドッドコム焼走り国際交流村、(有)元湯甲子温泉大黒屋、十勝岳温泉凌雲閣(株)
- ◎関西・中国／ホテル大山しろがね、ペンションいぶき、皆生温泉(株)三井別館
- ◎四国／剣山頂上ヒュッテ

- ◎登山用具販売店 神田／さかいやスポーツ
- ◎クライミングジム 西東京市／クライミングジム GIRI.GIRI

